

1 単元名 「枕草子・徒然草」を読んで、作者にファンレターを書こう

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「古典作品を読んで、作者にファンレターを書く」ことを位置付けた。ファンレターを書くためには、古典作品の中で気に入っている部分や共感する部分を見付け、自分の思いや考えを文章に書き表さなければならない。したがって、本単元で狙う「古典に表れたものの見方考え方について触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること」(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

- (1) 生徒観 : 生徒の多くは、古典は難しく読みにくいものと考えている。その理由は、言葉が分からないことや、主語の判別が難しいことなどが上げられる。テストでは、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことは9割の生徒が正解するのに対し、主語の判別は3割程度と苦手としていることが分かる。その反面、古典の内容に興味をもち、読むことができれば古典を楽しく感じるという生徒も4割近く見られた。苦手意識を持っている、言葉の難しさや内容の読み取りの難しさについて指導の改善をはかれば、生徒の古典に対する学力の向上も見込めるようになると考える。
- (2) 教材観 : 学習指導要領では、第2学年の目標として「古典に表れたものの見方考え方について触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること」を示している。枕草子と徒然草は、清少納言と兼好法師がそれぞれ執筆した随筆である。平安時代と鎌倉時代に書かれたものであるが、当時の人間のものの見方や考え方が、作者の視点を通して数多く読み取ることができる。生徒が、古典の世界に触れ、目標を達成しながら古典の世界を楽しむことに適切な教材であると言える。
- (3) 指導観 : 本単元では、まず第一に生徒が古典の世界に触れ、楽しむ態度を育成することを目的とする。その中で、古文に表れたものの見方や考え方を読み取り、作者の思いなどを理解することを目指す。そのために、まず生徒が積極的に古典に関われるよう、平易な現代語訳を先に提示し本文を読む活動を取り入れる。次に、読み取った内容をもとに、作者にファンレターを書く。ファンレターの内容は、現代の考え方や生活の仕方との共通点と相違点を踏まえた作者への感想や意見である。ファンレターを書くために、古文に表れたものの見方や考え方をしっかりと読み取ることで、古文に対する読みの力が向上すると考える。

4 単元の目標

- 関心・意欲・態度 積極的に現代語訳を読んだり、古文を朗読したりして古典の世界を楽しもうとする。
- 読むこと 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを持つことができる。
- 伝統的な言語文化とその特質に関する事項 古典に表れたものの見方考え方に触れ、作者の思いを想像することができる。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・技能・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・枕草子と徒然草に興味を持って読み、作者の思いを理解しようとしている。 ・作品について、自分の意見を積極的に発表したり、考えを深めたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・枕草子と徒然草を読み、作品に表れているものの見方考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典に表れたものの見方考え方に触れ、作者の思いを想像しながら読んでいる。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直している。

6 単元の指導計画(6時間扱い)

主な学習活動	主な評価
1 枕草子、徒然草を読み、「作者にファンレターを書こう。」という学習課題を設定する。(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を持って作品を読み、積極的に理解しようとしている。(関心・意欲・態度)

<p>2 2 作品を読み、現代との共通点や相違点を自分の知識や体験から考え、まとめる。(3時間)(本時はその第3時)</p> <p>3 作者へのファンレターを書き、互いに交流する。(2時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典に表れたものの見方考え方に触れ、作者の思いを考えている。(言語についての知識・理解・技能) ・作品を読み、文章に表れているものの見方考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを書いている。(読む能力)
---	---

7 本時の学習

- (1) 目標 古典に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを持つことができる。
- (2) 準備, 資料
教科書, ノート, 国語便覧, ワークシート, 現代語訳の本文
- (3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点 ※評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>清少納言, 兼好法師のものの見方や考え方に, 共感したり感心したりしたことを書こう。</p> </div> <p>2 選んだ本文から読み取った作者のものの見方や考え方について, 自分の考えを書く。</p> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白いやつまらないなど, 一言の感想になっている。 ・感想を書けてはいるが, 自分の知識や体験を踏まえたものになっていない。 ・作者のものの見方や考え方に合った知識や体験を関連付けて, 自分の考えを書いている。 <p>3 書いた感想を読み合い, 書いた感想や意見が作者に送るのにふさわしいかを話し合う。</p> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの視点が不明確で, 何を話しているのかが分からなくなる。 ・知識や体験を踏まえず, 単なる感想にとどまっている。 ・出された感想や意見を比較したり検討したりしている。 <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>〈期待する生徒の反応〉 ファンレターにまとめるのに, 適切な感想を, 複数から吟味しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で確認した本文について, 内容を簡単に押さえ現代との共通点や相違点を確認することで, 本時の学習課題をつめるようにする。 ・本時の学習の流れを確認することで, 見通しを持って学習に取り組めるようにする。 ・共感したり, 感心したりした部分や理由を問うことで, 自分の知識や体験を重ね合わせながら自分の考えを表現することを大切さを確認する。 ・作者になるほどと思わせるには, 作者の知らない現代の考え方や知識, また, 数百年を経た今もなお共通して持っている考えなどを根拠とし, 自分の感想や意見を書くことが大切だと確認する。 ・なかなか書き出せない生徒には, 本文から読み取れる内容と実生活での接点となるような事柄をヒントとして与え, 考えが持てるようにする。 ・早く書き終わった生徒には, 作品の内容をしっかりと理解した上で感想や意見を書いているか, 確認し合うようにする。 ※作者のものの見方や考え方を捉え, 自分の知識や経験と比較したり, 検討したりしながら自分の考えを持っている。[読] ・話し合いのモデルを見せることによって, 話し合いの話題や方向を捉えて的確に話せるようにする。 ・司会の役割や具体的な発言例を提示することで, 話し合いの視点を明確にしたり, 感想や意見の妥当性を見直したりできるようにする。 ・出された意見や感想を比較できるように, 小黒板にそれぞれの意見や感想を類型化できるようにする。 ・感想や意見の交流にとどまっているグループには, 互いにその理由や根拠を問うことで, 新たな感想や意見を得られるよう助言する。 ※古典に表れたものの見方や考え方についての意見を交流し, 作者の思いを想像している。[言] ・自分の考えた感想や意見が, 現代の知識や実際の生活を根拠とし, 納得のいくものになっているかを振り返る。